



鹿沼市認定
鹿沼の名匠

「ものづくりのまち鹿沼」を熟練の技で牽引する“鹿沼の名匠”。

鹿沼の産業や文化の振興を担うその技と心意気を紹介します。

vol.26

家庭用木製品・家具製造

株式会社めいじ屋

たかはし かずお
高橋 和雄 さん(茂呂)

プロフィール

昭和19年、西鹿沼町生まれ。地場産材(松)を使った新商品開発に注力し、特許・実用新案取得・意匠登録は50品目に上る。後進の指導にも力を入れている。

昭 和42年、父親が経営していた木製品製造業に従事したのが始まりだったという高橋さん。当時は現在のような手取り足取り教える職場ではなく、とにかく職人を見て、技術を盗んで作ってみるという世界。自分で一から試行錯誤する毎日が続いたそうです。

高 橋さんが取締役会長を務める「株式会社めいじ屋」では、スノコ・まな板・ナベ蓋など、昭和の家庭ではどこでも使っていた家庭用木製品を製造してきました。現在でも和せいろの蓋やスノコを製造していますが、家庭用木製品を主として続けているのは、全国でも少なくなっているそうです。

ぶんげい

名前(ふりがな)・住所を明記し、はがき・メールでご応募ください。締切は毎月20日(到着分)です。
〒322-8601 今宮町1-6-808-1
メール koho@city.kanuma.lg.jp
広報広聴係(応募部門を明記)

市民俳壇

子を駅に送り過ぎしや三が日

松原一丁目 伊東 康則

二季鳥の帰る埒や涅槃西風

檜木町 上野佐喜子

バレンタインデー「妻の形見」の杖一本

万町 海原ゆう子

高らかに老いの集いの雛のうた

深程 川津 明子

幾筋も木洩れ日そそぐ木の芽山

引田 斎藤 良明

芽の息を確かめてみる寒の庭

油田町 酒井 國男

苺食むひい孫元気希望わく

上野町 竹澤 光子

立春の風に吹かれて歩く街

下材木町 中島 成子

市民歌壇

小林 夏江選

智恵子抄に憧れて来し安達太良山雪山まぶし「ほんとうの空」

上南摩町 石塚三代子

初買いに眼鏡を求む我の目に合いてこれより永遠の道づれ

入粟野 神山 和子

岩山の登山道脇に陽を反すこの冬の霜柱なり

日吉町 小川 豊治



▶後進の指導に力を入れる



▶取得した特許等は50品目



▶製造された和せいろの蓋



▶開発した商品への想いを語る 高橋さん



既

製品だけではなく、頼まれれば何でも製造した、と話す高橋さん。そんな中、休憩時間や休日にも試したアイデアから生まれた「布団干し機能付きスノコベッド」は特許を取得し、シリーズ累計60万台以上が販売され、「かめまブランド」にも認定されました。他にも地場産材(松)を使った新商品開発に注力し、現在までに特許・実用新案取得は41品目、意匠登録を含めると50品目に上ります。「何でも木でできないか、試行錯誤してみる。失敗も多いが、たくさんチャレンジすることが大切」と発明の極意を語ります。

昭

和の木製品加工は手作業が8割。木工器具を駆使し、精度を確保しながら要望の木製品を作ってきたそうです。「現在は木工機械が進歩しましたが、機械を扱つのは職人です。木は1本1本違つ。品質第一で、最後の加減は手作業」と木製品加工のこだわりを語ります。

木

製品製造業に従事する職人を育てるため、会社では若年層の雇用を増やしています。「昭和時代のように『見て盗め』ではなく、丁寧な指導を心がけています」と語る高橋さんは、若い世代に「一から技術を教えています」。

便

利なものを開発し、多くの人に木製品を使つてほしい。高橋さんは「今まで50を超える開発を行いました。生涯現役で新商品を開発したい」と熱心に語りました。

山里に寺の鐘の音響きゆき寂る^{さぶ}夜空に光る夕星^{ゆふつぼ}
旭が丘 阿部 守

老いること知らぬが如き大樹なる枝垂れ桜はしなやかに咲く
睦 町 高村 光夫

卒寿より短歌を始めし病床の父に贈りぬ我の恋歌
西茂呂三丁目 相羽 秀子

ペイズリー柄の洋服買いくれし麻ひく母の姿惚ぼる
口粟野 葉山 陽子

久々に卒寿を過ぎしご夫婦に会い穏やかな心に触るる
西沢町 竹沢 敏子

市民川柳

中国と雪解け願う観光地
加 園 池田 大

体にもラジオ体操潤かつ油
塩山町 森野 静雄

女子会や甘い香りのとちおとめ
中栗野 大塚 初江

電話では連絡取れぬデジタル化
酒野谷 杉山 進

物価高妻よ嘆くな年金日
西茂呂 阿部 金司

一時間待って値引きの品を買い
寺 町 石田 忠

お刺身が目刺しに変わる納税期
府所町 郡司 勝

喚声と未来を乗せて園のバス
松原一丁目 齋藤 正利

松本とまと選

※選出の際に、選者による加筆・修正が入る場合があります。